

でんき

電気

暮らしを支える

電気

わたしたちの身のまわりで、電気で動いているものを考えてみましょう。

家の中だと、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電話などがあります。

家の外を見てみると、道路の信号や街灯、病院や工場の機械など、たくさんの施設や設備が電気で動いています。

普段よく目にするものほかに、地域の災害を防ぎ、人々の安全を守るための電気設備もあります。たとえば、河川や海岸の水門は、洪水を防いでいますし、また、防災無線や防犯灯、道路情報板などもあります。このように、電気はわたしたちの暮らしを支えているのです。

「電気」の最終ランナーとして

地域の電気事業者は、発電所から電線で運ばれてきた電気を、暮らしを支える設備につないで、届ける

「最終ランナー」といえます。

震災では、県内各地の電気事業者が役所との「防災協定」に基づいて、

いっせいに地域の重要な電気設備を緊急パトロールし、「一日も早く地域のみんなが『安全・安心』な生活をとり戻せるように」と、

復旧工事を行いました。

地震や津波の後も、

発電所の電力が不足したため、全国的に節電対策が行われました。そのときも、

行政からの要請を受けて、街路灯の消灯活動を行うなど、地域に電気を届け、電気で動く施設を守る



左 震災で傾き、倒壊寸前の電柱



右 復旧工事のようす (浦安市提供)

「電気」の最終ランナーとして、復旧・復興を支えました。